

若者も高齢者も安心できる年金と雇用を！ 請願採択めざす国会行動 & 年金0.4%引き下げ許さない決起集会

コロナ禍で物価も上昇しているのに4月から年金0.4%引き下げなんて許せない！
若者も高齢者も安心できる年金と雇用を求め、請願署名の採択をめざす決起集会を行います。署名の請願項目についてのミニ学習会もあります。多くのご参加をお願いします。

3月24日(木) 11:00-14:00

(通行証配布とZOOMの入室許可は10:30～予定)
衆院第一議員会館大会議室 &
ZoomウェビナーとYouTube

主なプログラム(案)

11:00 開会

署名のミニ学習会

・年金課題 年金者組合 吉田務・副執行委員長

・高齢者雇用 全労連 雇用・労働法制局長 伊藤圭一・常任幹事

12:10 議員あいさつと署名提出

12:50 行動提起

13:00～国会議員要請

●ZOOM ウェビナー 下記 URL から登録してください。案内メールが届きます。

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_wEmf4ud_Ruy9aGjyNdcR0g

●YouTube はこちらの URL から <https://youtu.be/JgTsyEZXms>

●スマホはこちらの QR コードから



ウェビナー登録



YouTube



●資料は 全労連 HP のダウンロードのページ <https://zap.zenroren.gr.jp/fdl/index.aspx>

年金者組合の HP

<http://nenkinsha-u.org/>

※3月23日昼頃にアップします

主催◆全国労働組合総連合(全労連)◆全日本年金者組合
連絡先(全労連)03-5842-5611 〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 4階

年金と雇用2022署名推進

3. 24怒りの決起集会 学習会～年金

全日本年金者組合

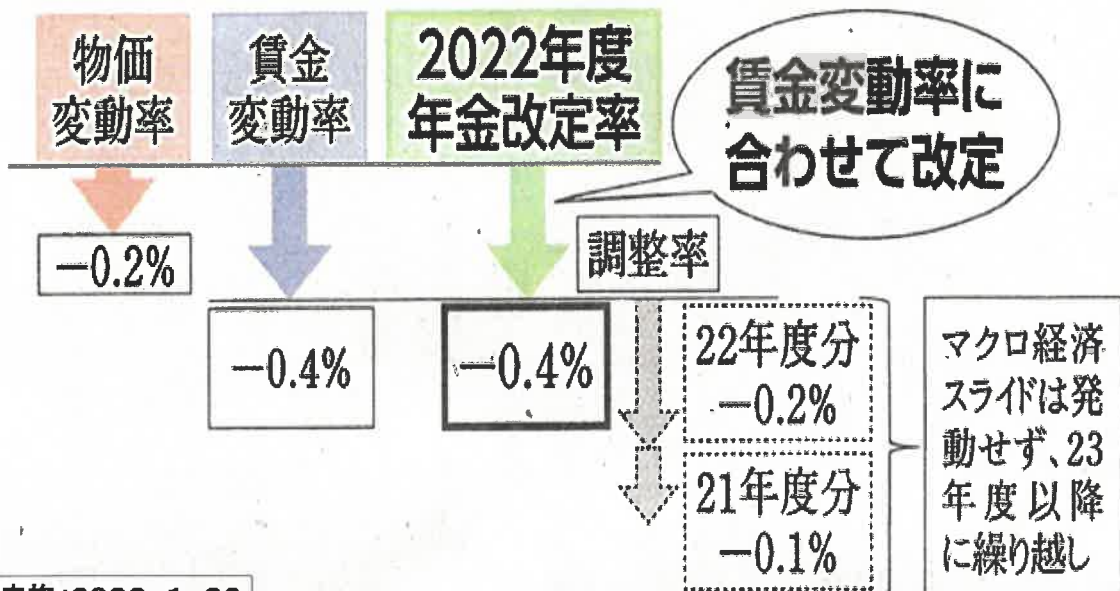
副委員長・社会保険労務士 吉田 務

2022.3.24

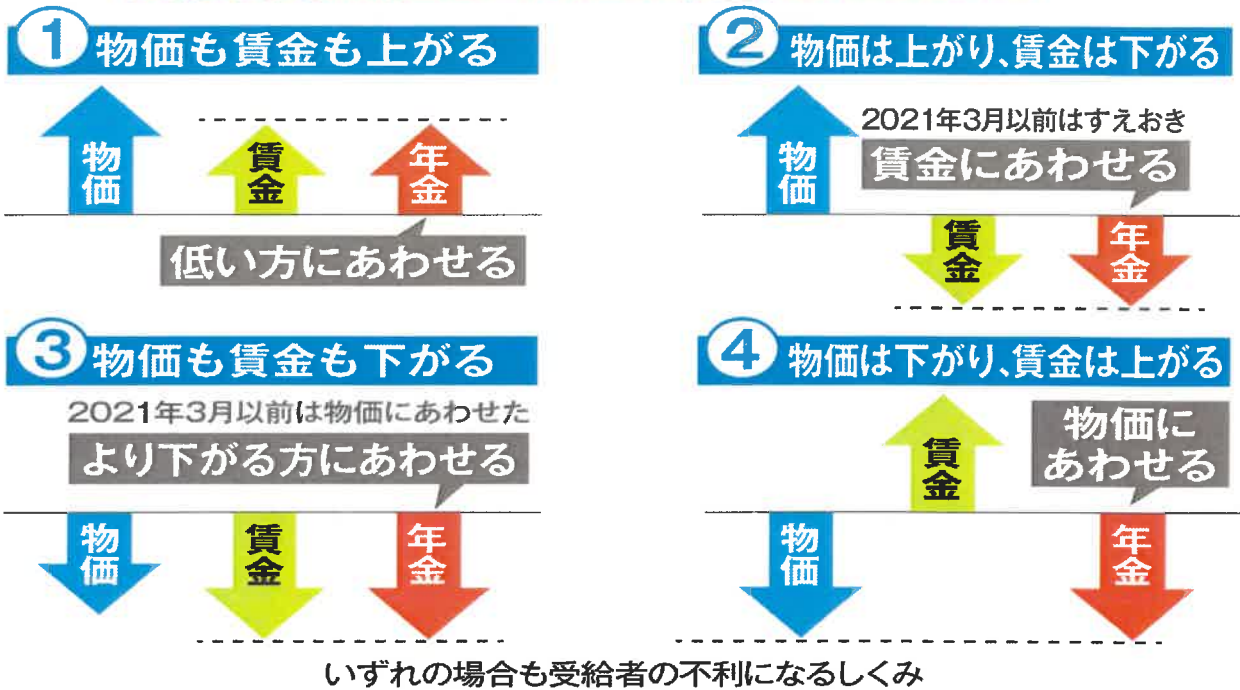
1

自公政権10年で年金減額6.7%

2022年度0.4%減額。0.3%キャリーオーバー(繰り越し)。

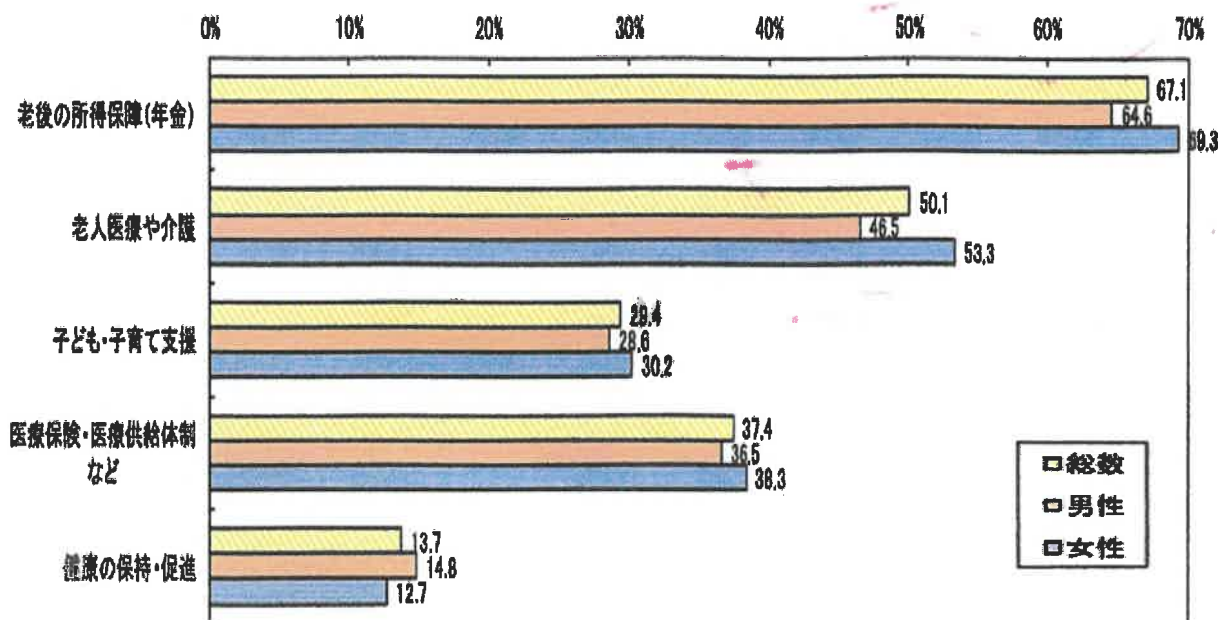


2021年4月以降、年金改定ルールがさらに改善された！



出典) 厚生省資料より全日本年金者組合作成

今後充実させる必要があると考える社会保障の分野（3つまで回答）



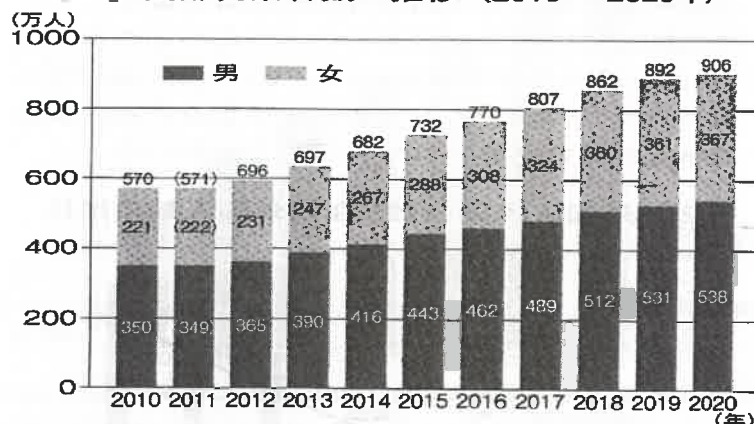
厚生省「2019 社会保障に関する意識調査報告書」

働かざるを得ない高齢者が増えている

全国の無年金者77万人
65歳以上の約2%

- ①2016年現在の無年金者数の推計96万人。
- ②2017年8月、年金受給資格期間が25年から10年に短縮の結果、約50万人が新たに権利を得た。その平均額は27,787円。
- ③2019年現在の推計では、無年金者数は77万人に増加している。今後さらに増加することが見込まれる。

高齢就業者数の推移 (2010～2020年)



(注) ①数値は、単位未満を四捨五入しているため合計と内訳が一致しない場合がある。②2011年は、東日本大震災に伴う補完推計値。

資料：「労働力調査」(基本統計)

高齢者の就業者の**77.3%**が非正規の職員・従業員であり、そのうちパート・アルバイトの割合が**52.7%**と最も高く、**低賃金の労働**である。

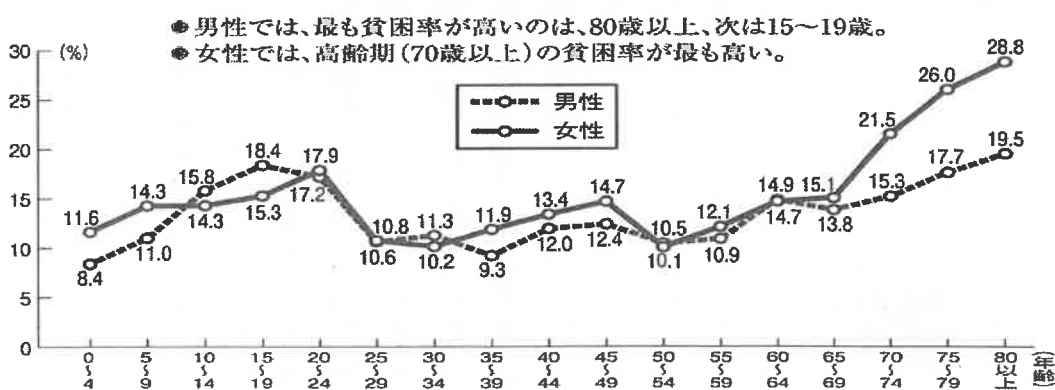
出典

①「平成28年公的年金加入状況等調査結果の概要」2018年5月

②「社会保障審議会年金部会・資料」2018年4月4日

③「令和元年公的年金加入状況等調査結果の概要」2021年8月18日

年齢層別・性別の相対的貧困率(2018年)



出所：厚生労働省「2019年国民生活基礎調査」より阿部彩作成

女性のひろば 2022年2月号

高齢者単身世帯(68歳)の生活扶助額および住宅扶助額

(円)

	1級地-1	1級地-2	2級地-1	2級地-2	3級地-1	3級地-2
生活扶助	79,550	76,180	72,010	70,900	67,860	65,500
住宅扶助(上限額)	53,700	34,000	43,000	35,000	32,000	32,000
合計	133,250	110,180	115,010	105,900	99,860	97,500

厚労省「生活保護基準検討会」2019.3.18

「年金と雇用政策署名2022」に、なぜとりくむか

- 全労連は、「若者も高齢者も安心できる年金と雇用政策を」として署名に取り組み、3600万人の高齢者の労働組合への組織化も視野に入れ、運動を進めることを決定した。
- 今回の署名運動は、国民春闘共闘・全労連・労働法制中央連絡会の連名で署名を取り組み、国会請願を成功させようとするもの。こうした取り組みは初めてのもので、全日本年金者組合は組織をあげて取り組む決意を確認した。
- 国民春闘共闘・全労連・労働法制中央連絡会として100万筆を目標とする。
年金者組合は、この運動の先頭に立ち50万筆を目標とする。

7

請願項目

1. 年金について

- ①年金引き下げの仕組みである「マクロ経済スライド」は廃止すること。
- ②65歳の年金支給開始年齢をこれ以上引き上げないこと。
- ③全額国庫負担による「最低保障年金制度」を早急に実現すること。
当面、基礎年金の国庫負担分3.3万円/月を全ての高齢者に支給すること。
- ④年金支給は隔月でなく、国際標準である毎月支給とすること。
- ⑤年金積立金の株式運用をやめ、年金保険料の軽減や年金給付の充実をはかること。

8

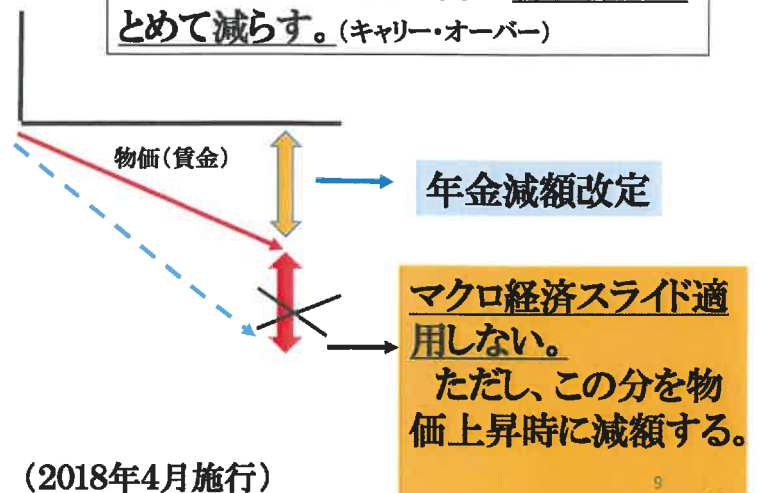
請願項目① マクロ経済スライドの廃止

マクロ経済スライドと「キャリーオーバー」への改悪

マクロ経済スライドは、
04年改悪で導入された「年金水準を自動的に切り下げる仕組み」
 $\text{年金額} \times (\text{物価上昇率} - \text{調整率}) = \text{次年度年金額}$

《調整率》
保険料を納める人(現役労働者)の減少率(04年当時は-0.6%)と平均余命の伸び率(-0.3%)をもとに算出。
04年当時-0.9%とされた。

マクロ経済スライドが実施できない場合、
その分を翌年度以降に繰り越し、まとめて減らす。(キャリー・オーバー)



マクロ経済スライド廃止の財源(7兆円)はつくれる

1 高額所得者優遇の保険料を見直し、年金財政の収入を増やす

現在、年収1000万円程度となっている厚生年金保険料の上限額を、健康保険と同じ、年収約2000万円(月収139万円+賞与)程度まで引き上げれば1.6兆円程度の保険料収入が増えます。給付増分差し引いても1兆円規模の財源を確保できる。なお、2020年9月から従前の標準報酬月額の上限等級(31級・62万円)の上に1等級が追加され、上限が引き上げられた(上限が32級・65万円になった)。

2 巨額の年金積立金を年金給付に活用する

年金積立金は、厚生年金、国民年金、共済年金をあわせて190兆円。日本の年金総額は約55兆円強であり給付費の約4年分となる。ヨーロッパ諸国の年金積立金は、ドイツが給付費の1.6カ月分、イギリスが給付費の2カ月分、フランスが給付費の1カ月分未満などで、日本の「ためこみ」は異常。積立金を計画的に取り崩し、高齢化のピークとされる2050年代をめどに計画的に活用していく。

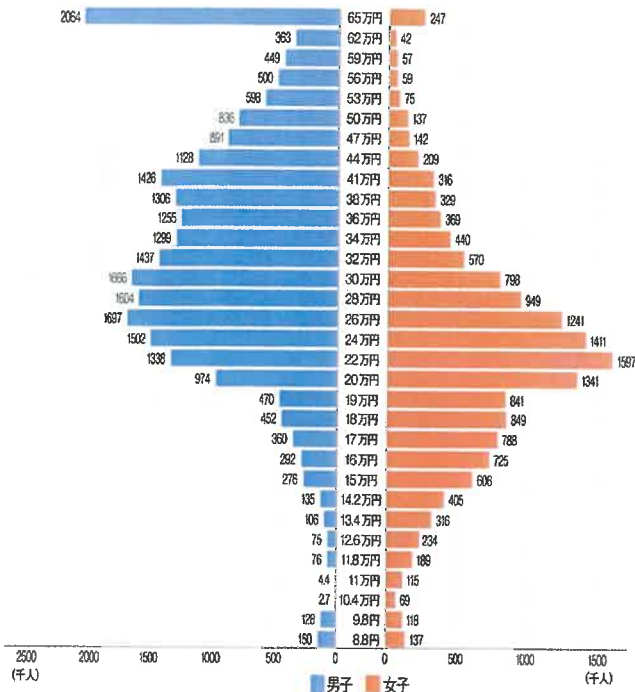
3 賃上げと正社員化を進めて、保険料収入と加入者を増やす

年金の支え手である現役労働者の賃上げと、非正規雇用の正社員化で、保険料収入と加入者を増やし、年金財政を安定化させる。最低賃金の引き上げ、全国一律の最低賃金制度の創設、中小企業の賃上げ支援予算の大幅増額などで「8時間働けばふつうに暮らせる社会」にするための改革をすすめる。

公的年金の財政状況(2019年度)

区分	厚生年金計	国民年金		公的年金 制度全体	
		国民年金勘定	基礎年金勘定		
前年度積立金(⑦)	時価ベース 1,881,696	億円 91,543	億円 33,355	億円 2,006,594	
収入 (単年度)	総額	503,376	34,168	245,758	529,149
	(再掲) 保険料収入	377,446	13,458	-	390,904
	(再掲) 国庫・公経済負担	112,019	17,684	-	129,703
	(再掲) 基礎年金交付金	5,521	2,971	-	-
	(再掲) 基礎年金拠出金収入	-	-	245,662	-
支出 (単年度)	総額	509,455	35,958	241,847	533,108
	(再掲) 給付費	292,173	4,082	233,352	529,607
	(再掲) 基礎年金拠出金	214,892	30,769	-	-
	(再掲) 基礎年金相当給付費(基礎年金交付金)	-	-	8,492	-
運用損益分を除いた単年度収支残(⑧)	▲6,079	▲1,790	3,911	▲3,959	
運用損益(⑨)	時価ベース ▲93,115	▲4,595	15	▲97,696	
その他(⑩)	時価ベース 184	74	-	259	
年度末積立金(⑪+⑫+⑬)	時価ベース 1,782,686	85,232	37,281	1,905,199	

標準報酬月額等級の分布



厚生労働省「厚生年金保険・国民年金事業年報(注釋)」(2020年9月分)にもとづき作成

厚生労働省「公的年金の財政状況報告書」(2019年度)にもとづき作成

請願項目② 65歳の支給開始年齢をこれ以上引き上げないこと

厚生年金の支給開始年齢の引上げに関する沿革

- 厚生年金の支給開始年齢は、制度発足当初は55歳であったが、累次の改正により65歳に向けて、徐々に引き上げられてきた。
- 一方、国民年金の支給開始年齢は、制度発足当初より、65歳である。

昭和17年 労働者年金保険法 : 男子 55歳 (女子は適用除外)

昭和19年 厚生年金保険法 : 男子、女子ともに55歳

昭和29年改正 : 男子 55歳 ⇒ 60歳 (4年に1歳ずつ。昭和32年度から16年かけて引上げ。)
女子 55歳のまま

昭和60年改正 : 男子 60歳 ⇒ 65歳。ただし、60歳~65歳まで特別支給の老齢厚生年金を支給。
女子 55歳 ⇒ 60歳 (3年に1歳ずつ。昭和62年度から12年かけて引上げ。)

平成6年改正 : 老齢厚生年金の定額部分について、
男子 60歳 ⇒ 65歳 (3年に1歳ずつ。平成13年度から12年かけて引上げ。)
女子 60歳 ⇒ 65歳 (3年に1歳ずつ。平成18年度から12年かけて引上げ。)

平成12年改正 : 老齢厚生年金の報酬比例部分について、
男子 60歳 ⇒ 65歳 (3年に1歳ずつ。平成25年度から12年かけて引上げ。)
女子 60歳 ⇒ 65歳 (3年に1歳ずつ。平成30年度から12年かけて引上げ。)

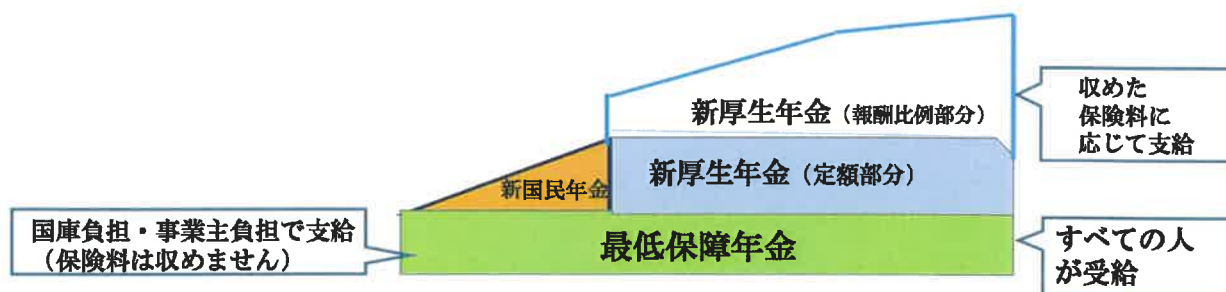
請願項目③ 基礎年金国庫負担分3.3万円／月を全ての高齢者に支給する
最低保障年金制度をつくろう

現 在		→	要求実現で	
受給額	国庫負担		国庫負担	受給額
無年金	0		3.3万円	3.3万円
2万円	1万円			4.3万円
4万円	2万円			5.3万円

- 無年金者には、基礎年金がないので3.3万円を支給する。
- 受給額2万円の方は、50%の1万円が国庫負担。3.3万円－1万円＝2.3万円を加算。受給額は、2万円＋2.3万円＝4.3万円となる。
- 受給額4万円の方は、50%の2万円が国庫負担。3.3万円－2万円＝1.3万円を加算。受給額は、4万円＋1.3万円＝5.3万円となる。
- 全ての高齢者に3.3万円を支給するための財源は、概算額で月2000億円である。現在の国庫負担年間12.4兆円を14.8兆円にするだけで実現できる。

13

最低保障年金制度をつくろう



- ①すべての日本国在住者を対象とする ②日本に10年在住で支給する
- ③ひとり8万円(月額)とする ④65歳から支給する
- ⑤すでに収めた国民年金・厚生年金保険料納付分は2階部分の新国民年金・新厚生年金として支給する
- ⑥現在の基礎年金の国庫負担分と企業負担分は最低保障年金の財源にあてる

14

請願項目④ 公的年金は隔月ではなく毎月支給せよ

- 日本は多くの家庭の生活のサイクルが「月単位」になっている。賃金は「月給制」を採用している企業が90%超であり、生活保護等の公的給付も「毎月支給」である。
- 低年金者ほど「毎月支給」の要求が多い。
- 全日本年金者組合の「毎月支給」を含んだ自治体請願は40都道府県252自治体で採択されている(2021年4月6日現在)。政令指定都市国保・年金主管部長会議は、2016年から国に対して「年金の支給期月を隔月から毎月へ変更するよう」要望。
- 「隔月支給」から「毎月支給」へのシステム変更は20億円程度(厚労省)である。

世界の動向

■毎月支給

- ①スイス ②オランダ ③ベルギー ④ポルトガル ⑤フランス⑥アメリカ
⑦ドイツ ⑧オーストラリア

■毎週支給……イギリス

■2週に1回支給……ニュージーランド

「日本のような隔月支給を原則とする例は他に見当たらない。」(辻康弘 東京医療保健大学客員教授)

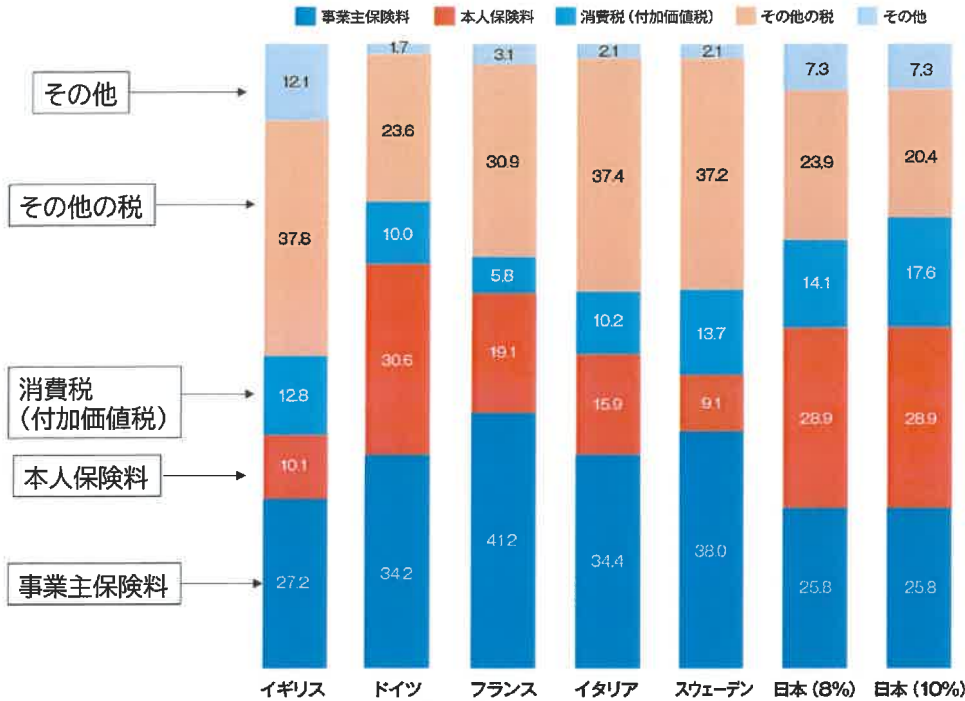
請願項目⑤ 年金積立金の株式運用をやめ、年金保険料の軽減や年金給付の充実をはかること

- 年金積立金は、私たち国民の財産。
政府が勝手に使うものではない。
国民年金法第75条「積立金の運用は、(中略)専ら国民年金の被保険者の利益のために、長期的な観点から、安全かつ効率的に行うことにより、将来にわたつて、国民年金事業の運営の安定に資することを目的として行うものとする。」
- 年金積立金の総額は190兆円(2019年度)。
コロナ禍で GPIF19年度8.25兆円の損失。
株式運用はやめて安定的運用を！

アメリカの積立金は、株式運用を禁じられている。
政治介入もできない。



日本とヨーロッパ主要国の社会保障財源の比較



日本の社会保障財源は、構成比でみた場合、先進諸外国と比べて、公費負担、事業主負担があまりにも少なすぎる。

公費負担(消費税・その他の税)でいえば、スウェーデンが50.9%、イギリスが50.6%に対し、日本は**38.0%**にしかすぎない。

事業主負担は、フランスが41.2%、スウェーデンが38.0%に対し、日本は**25.8%**。

一方、被保険者本人負担は、スウェーデンが9.1%、イギリスが10.1%、日本は**28.9%**と極端に高くなっている。

注：各国の社会保障財源の構成比。単位：0%。日本は2018年度、ドイツは2016年、他は2017年データにより計算。「日本(10%)」は、消費税率を10%とした場合の推計値
 資料：国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計」(2017年度)、ユーロスタットホームページ「社会保障費統計」データベース、OECD 歳入統計など

国連社会権規約委員会等が日本政府に勧告

「最低保障年金を導入せよ」「男女不平等を改善せよ」

社会権規約委員会は、締約国が最低年金を公的年金制度に導入することを勧告する。さらに、委員会は年金制度に存続する事実上の男女不平等が最大限可能な限り改善されることを勧告する。(2001年)

社会権規約委員会は、締約国に対して要請した公的年金制度に最低保障年金を導入するという前回の勧告を再度表明する。また、委員会は、締約国に対して、公的な福祉的給付の申請手続きを簡素にするため及び申請者が尊厳を持って取り扱われることを確保するための措置を講じることを要求する。

(2013年)

国連・女性差別撤廃委員会の「日本定期報告に関する総括所見」

41. 委員会は締約国に対し、貧困削減と持続可能な開発をめざす努力を強化することを求める。委員会はさらに、締約国がシングルマザー・寡婦・障害女性・高齢女性のニーズに特別の関心を払い、年金制度をこれらの女性たちの最低生活水準を保障するものに改革するよう要請する。

(2016年)

ILO102号条約(社会保障・最低基準条約)。厚生年金受給者は、「年金受給資格年齢の妻を有する男子の標準的な受給者の年金は、**30年拠出した場合、従前所得の40%以上**とすること」。また、国民年金受給者は、「年金受給資格年齢の妻を有する男子の標準的な受給者の年金は、20年居住又は30年拠出した場合、『普通成年男子労働者』の賃金の40%以上とすること」。条約を批准した国には条約遵守義務があり、条約違反していると、国内法を改正しなければならない(日本は1976年2月2日に批准)。

「年金署名」 高齢者雇用の請願項目について

全労連 雇用・労働法制局長 伊藤圭一

請願項目 2. 高齢者雇用について①

①-1 年金の支給開始年齢と定年年齢は接続させるものとする。

- 高年齢者雇用安定法は、65歳までの雇用確保措置義務を事業主に課している（9条：3つの選択肢）
- **65歳定年の企業は2割弱**。多くは退職・再雇用。
- 再雇用の労働契約では、多くの場合、賃金は低下。生活水準とのギャップで貯蓄取崩し、老後に不安低い労働条件による就労阻害（妨害）も。

※義務化2004年4月施行

- | | |
|---|---|
| ① | 65歳までの定年の引上げ |
| ② | 65歳までの継続雇用制度【再雇用制度・勤務延長制度】の導入（特殊関係事業主（子会社・関連会社等）によるものを含む） |
| ③ | 定年制の廃止 |

※雇用確保措置義務9条は、事業主に対する雇用請求権を生じさせた規定ではない（政府解釈、大阪高裁H21）。

⇒ 定年と年金支給との間に「低賃金化・不安定雇用化／離職・失業」の危機の期間をつくらず、「接続」を。

定年制度の見直しの状況

- 定年（労働者が一定の年齢に到達すると労働契約を終了させる企業の定め）
60歳を下回ってはならない（8条）。「65歳への引上げ」は雇用確保措置の選択肢の一つ。
- 定年廃止 年齢にかかわらず労働契約継続。契約終了には、合意解消又は解雇措置が必要。

図表 2-4 定年年齢(単位:%)

	n	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳
2019年調査	5,578	75.6	0.3	1.2	1.7	0.2	18.5
2015年調査	6,187	81.2	1.1	1.0	1.2	0.2	13.9
	66歳	67歳	68歳	69歳	70歳	71歳以上	無回答
2019年調査	0.6	0.1	0.1	0.0	1.1	0.1	0.5
2015年調査	0.0	-	0.1	-	0.7	0.0	0.4

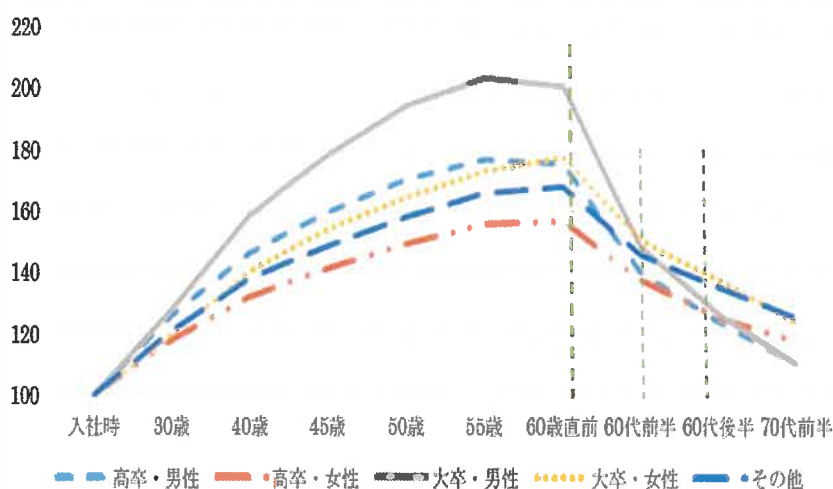
労働政策研究・研修機構「高齢者の雇用に関する調査」（企業調査）2020年3月発表、2019年6月調査

- 公務員の定年延長（国家公務員法、地方公務員法の改正）
 - ・国家公務員法改正法案 第81条の2第2項「定年は、**年齢65年とする**（職務と責任の特殊性、欠員補充困難な場合、65年を超え70年を超えない範囲内で人事院規則で定める年齢とする）」
 - ・給与は「一般職の職員の給与に関する法律附則第八項、第十項中「**百分の七十を超えない範囲内**で六十歳以上の者に係る民間給与の水準を勘案して人事院規則で定める割合」とされる。

60代前半の雇用：賃金抑制

図表 1-11 最も多い性・学歴階層別、各年齢の平均的な給与月額

(初任給を100としたときのおおよその指数)



図表 5-5 フルタイム勤務・継続雇用者の61歳時点の賃金水準の平均値

(定年の有無・定年年齢別、60歳直前の賃金を100とした時の指数)

		最も高い水準の人	平均的な水準の人	最も低い水準の人
定年なし	平均	95.3	83.8	73.8
	n	164	173	155
定年あり	平均	89.3	78.5	70.7
	n	4,017	4,220	3,821

労働政策研究・研修機構「高齢者の雇用に関する調査」2020年3月発表、2019年6月調査

請願項目 2. 高齢者雇用について①

①-2 過密・過重労働、夜勤交替制労働など心身の負荷が高い業務については、60歳からの減額なしの特別支給制度を創設すること。

・①-1の「年金支給開始と定年の接続」に関する2つの要求

- A 定年延長賛成・65歳に
- B 定年延長反対・早く年金支給を

・Bは、夜勤交替制労働、長時間過密・過重労働などが特徴的な業種・職種で働く労働者の要求。
⇒その要求を請願項目に。目標は「年金支給開始についての選択の自由」（例：フランス）

※脳心臓疾患 労災請求件数

道路貨物運送業（118件：死亡36）、建設・総合工事（44：13）、福祉介護（40：6）
医療（27：7）、設備工事（26：9）・・・

※精神疾患

福祉介護（275件：自殺4）、医療（209：6）、道路貨物運送（101：8）、
情報サービス（76：9）、卸売・小売（69：1）、学校教育（57：3）・・・

請願項目 2. 高齢者雇用について②

② 定年や年齢を理由とした一方的な賃金の引き下げを禁止し、労働者の経験と職務に応じた「同一労働同一賃金」を順守させること。

- ・再雇用を契機とした（事実上の）労働条件の一方的な不利益変更がまん延
- ・再雇用労働者は有期労働契約 ⇒ 「パート・有期法」均等・均衡待遇の対象。
本来は「不合理な待遇格差」は禁止。
だが、均衡待遇考慮の3要素のうち「その他の事情」重視で格差容認。

⇒ パート有期法第8条の均衡考慮3要素

「職務内容」「職務内容及び配置の変更の範囲」「その他の事情」の見直しと使用者におけるルール順守の徹底。

旧労契法20条裁判 再雇用関係の判決



○格差は不合理 ×不合理とはいえない

長澤運輸事件（最高裁）

原告 定年退職後再雇用された有期嘱託社員（男）

最高裁 ○精勤手当

○超過勤務手当

×基本給＋能率給＋職務給（正規）と 基本給＋歩合給（嘱託）

← 差は12%以内、基本給と歩合給係数が正規より高い、調整給、団交で妥結

×住宅手当・家族手当 ← 世帯形成期の世代でない。年金支給間近

×賞与 ← 退職金支給済み。年金支給間近・・・「その他の事情」

名古屋自動車事件（名古屋地裁令2・10・28判決）

原告 定年退職・再雇用の教習指導員（男） 業務内容と責任は同一

高裁 ○基本給 ← 退職前16～18万円が7～8万円に（6割下回る部分は違法）

○賞与 ← 減額された基本給に調整率を乗じたもの。6割未満分の差額支払い

※1996年 丸子警報器事件判決（長野地裁上田支部）「8割下回るのは公序良俗違反」

請願項目2. 高齢者雇用について③

③ 継続雇用者を65歳以降、業務委託に切り替える「創業支援等措置」は廃止すること

・高年齢者雇用安定法「改正」で **高齢者のフリーランス化を促進！**

- 労使間で十分協議し高年齢者のニーズに応じた措置が、望ましい（指針）
- 70歳までの就業確保措置では、使用者が対象者基準を設置できる（指針）
- 高年齢雇用継続給付金は削減…後に廃止
 - ※ 雇用保険法第61条第5項、6項
 - 2024年まで現状維持、25年以降は給付率を15%から10%に低減（30年に廃止の方向）

70歳までの就業機会確保措置（努力義務）

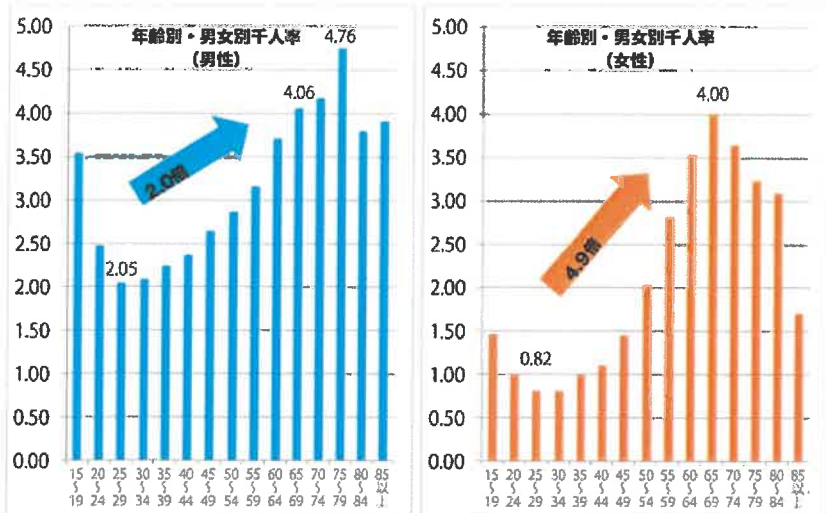
- | | |
|---|--|
| ① | 70歳までの定年引上げ |
| ② | 70歳までの継続雇用制度【再雇用制度・勤務延長制度】の導入（特殊関係事業主に加えて、他の事業主によるものを含む） |
| ③ | 定年制の廃止 |

創業支援等措置*

- | | |
|---|---|
| ④ | 70歳まで継続的に業務委託契約を締結する制度の導入 |
| | 70歳まで継続的に以下の事業に従事できる制度の導入 |
| ⑤ | a. 事業主が自ら実施する社会貢献事業
b. 事業主が委託、出資（資金提供）等する団体が行う社会貢献事業 |

※雇用以外の措置。創業支援等措置の実施に関する計画を作成し、過半数組合・過半数代表者の同意を得て導入

加齢につれ労災は増加。なのに、労働者保護外し



発生率(千人率) = $\frac{1年間の休業4日以上の死傷者数}{1年間の平均労働者数} \times 1,000$

※便宜上、15～19歳の死傷者数には14歳以下を含めた。1年間の平均労働者数として、「役員を兼ねた雇用者数」を用いている。
資料出所：労働者死傷疾病報告（平成30年）、総務省「労働力調査」（基本集計・年次・2018年）



発生率(千人率) = $\frac{1年間の休業4日以上の死傷者数}{1年間の平均労働者数} \times 1,000$

資料出所：労働者死傷疾病報告（平成30年）、職業構造基本調査 全国編集（平成29年）第61表 雇用者：会社などの総数を除く。

両図ともに、厚生労働省「人生100年時代に向けた高齢労働者の安全と健康に関する有識者会議報告書」より

年金署名の推進で

差別根絶・均等待遇の実現
就労／リタイアを選択可能に
高齢になっても安心して暮らせる社会に

行動提起 2022年3月24日

「年金引下げ中止」と「年金と雇用署名2022」推進に向けた行動提起

～「年金引下げ中止」をもとめて、参議院選挙に向けて闘いを継続させよう！！～

1、はじめに

厚生労働省は1月21日、現役世代の実質賃金が下がったことを理由に、2022年度の公的年金額を一律0.4%引き下げると発表しました。

安倍政権下の13年度から岸田政権下の22年度までの10年間をみると、物価の変動率は「プラス5.6%」、年金改定率は「マイナス1.1%」で、年金額は実質6.7%も削減されます。

年金だけで生活している高齢者世帯は57.2%、定額の保険料を納付できない人は708万人、国民年金だけの老齢年金（納付期間25年以上）の平均年金月額が女性で50,015円、男性で54,014円となっており、「一律マイナス0.4%」の削減を許せば、低年金・低所得の世帯ほど打撃は大きく、貧困と格差の拡大に拍車をかけることとなります。また、将来年金を受給する現役世代にも大きな影響を及ぼし、地域経済にも大きな影響を与えます。

年金引き下げの決定を撤回するとともに、「削減ありき」の年金改定率を決める現行の仕組みを抜本的に見直して、高齢者が安心して暮らせる年金制度（最低保障年金制度）を早急に実現すべきです。

2、この間の取り組みと情勢の変化

(1) この間の取り組み

- ①全労連が「年金と雇用署名2022」のキックオフ集会を開催（2/3）
- ②「年金と雇用署名2022」推進、「年金引下げ中止」の記者会見（2/10）
- ③「年金引下げの凍結・中止」を求める国会前行動（2/15）
- ④「年金引下げ撤回」を求め、厚労大臣に対する申し入れと交渉（2/17）
- ⑤「年金引下げ凍結法案」の共同提出を求めて
立憲民主党、日本共産党、れいわ新選組、社会民主党に要請（3月上旬）
- ⑥「年金引下げの凍結・中止」をすべての政党、会派に要請（3/15、17日）
- ⑦政党、会派に加えて、厚労委員、参議院の改選議員に対する要請（3/9）
- ⑧各都道府県でも、「年金削減の撤回を求める厚生労働大臣宛の抗議・要請FAX行動」、「年金削減に対する抗議の投書活動」、「年金雇用署名2022」のとりくみと宣伝活動、「公的年金の引き下げ中止を求める意見書」採択などにとりくんできました。

(2) 情勢の変化

- ①2月21日の衆議院予算委員会で「年金引下げ問題が」審議
- ②宮城県大崎市では「年金引下げ中止を求める」意見書が採択
- ③高知新聞や沖縄タイムスなど地方紙で、高齢者や年金生活者から「年金引下げに対する怒りの声」が掲載
- ④自民・公明両党の幹事長が岸田首相に「年金受給者に給付金を要請」

3、行動提起

政府は、「年金引下げ0・4%」の根拠として現役世代の実質賃金低下を主張しています。年金削減は、年金受給者はもちろん、将来の年金受給者である現役世代にも大きな影響を与えことから、現役世代を含めた「怒りの行動」を組織しなければなりません。

3月22日に2022年度予算が成立しましたが、今後のとりくみを成功させ、国民世論を結集すれば年金引き下げは阻止することは可能です。

参院選までの運動が決定的に重要です。「年金と雇用署名2022」推進のとりくみと「年金引下げ中止」を求める幅広い運動の発展をめざします。

(1)「年金引き下げ中止」を求めるとりくみ

①岸田首相への手紙の取り組み 【別紙】

一定の数が集約できた段階で、記者会見と要請行動を行う。

②自民党・公明党に「年金引下げ中止を求める」声を集中する

また、野党に対しては「年金引下げ凍結法案」の共同提出を求める

③公的年金の引き下げ中止を求める「意見書」提出運動などにとりくむ

④年金削減に対する抗議の投書活動を組織する（新聞各社の投稿欄・特に地方紙）

⑤政府に年金引き下げを決断させるため、地方選出議員への働きかけを行う

⑥5月25日の「年金雇用署名2022」の提出と「年金引下げ中止を求める怒りの決起集会」を成功させる（岸田首相への手紙を提出）

※国民世論を結集するとりくみ

①4月15日の年金支給日全国一斉宣伝行動をすべてに地域で成功させ、年金引下げをストップさせる決起の場とする

②「年金雇用署名2022」の取り組みを通じて地域・住民に訴える

③地域住民や高齢者団体、老人会などへの呼びかけを行う

※「年金引下げ中止」「最低保障年金制度の確立」（全ての高齢者に3・3万円、年金の毎月支給）を参議院選挙の争点にするとりくみ

※「組合に入って、ともに年金引下げを阻止しよう」の声掛けを徹底し、仲間を増やし、社会的な影響力を高めて、要求実現を図る。

(2)「年金雇用署名2022」の請願署名の推進を図り、要求実現をめざす

●「年金雇用署名2022」の100万筆達成を目指して全力でとりくむ

①国会議員に対し、「署名」の紹介議員となるよう求める（国会議員、政党の地方事務所への訪問、要請を行う）

②地方自治体への意見書採択のための要請運動を強める、可能なところは、自治体首長との懇談を計画実施する

③4月15日に年金支給日全国一斉宣伝行動で飛躍を（4月15日をゾーンに）

④署名の第二次集約は5月16日（月）とし、5月25日に署名提出

⑤インターネット署名のとりくみ

※署名内容の解説版の改定と学習会を組織する

※参議院選挙で統一候補者を中心に「請願項目」を選挙政策に掲げるよう要請する

●たかひの展望＝消費税導入直後の1989年7月の参院選では、自民党が69議席から36議席へと惨敗し、宇野宗佑首相が辞任し、消費税廃止法案が参院で可決されました。98年の参院選では自民党が16議席減り、橋本龍太郎首相が退陣しました。2007年参院選では、自民党が27議席減となり、安倍晋三首相が政権を投げ出しました。参院選挙で政権交代はできなくても政策を変えることはできます。

岸田首相への手紙

拝啓 岸田文雄首相 様

厚生労働省は1月21日、2022年度の公的年金額を0.4%引き下げると発表しました。

新型コロナウイルスによる影響に加え、原油高騰やウクライナ情勢により、原油だけでなくパン、小麦、冷凍食品、カップ麺、トイレットペーパーなども値上げラッシュで、電気・ガス代や魚や果物といった生鮮食品も1年前に比べ1割以上値上がりしています。こうしたもとで、「公的年金0.4%引き下げ」は4000万人の年金生活者のみならず、地域経済にも大きな影響を与えます。

特に低年金・低所得者ほど影響が大きくなることから、宮城県大崎市をはじめ地方議会で「公的年金の引き下げ中止を求める意見書」が採択されています。

また、高知新聞や沖縄タイムスをはじめ地方紙では、高齢者や年金受給者から「年金引下げに対する怒りの声」が掲載されています。

年金受給者の声を聞いてください。高齢者の生活実態に目を向けてください。

「公的年金の0.4%引下げ」は実施しないでください。

敬具

私の生活実態

岸田首相へのお願い

※任意 名前 職業 年齢 所在地

全日本年金者組合

〒170-0005 東京都豊島区南大塚

1-60-20 天翔大塚駅前ビル4F

TEL : 03-5978-2751 FAX : 03-5978-2777

E-mail : honbu@nenkinsha-u.org

2022年3月24日

御中

全日本年金者組合
中央執行委員長 杉澤 隆宣

年金切り下げ0.4%に対する抗議・要請 FAX 行動のお願い

みなさんへ

新型コロナウイルス感染症の急拡大の中、連日の奮闘に心より敬意を表します。

全日本年金者組合中央本部は、3月22日常任中央執行委員会を開催し、厚生労働省が1月21日に発表した年金引下げ0.4%に強く抗議し、その中止を求める抗議要請 FAX 行動を全労連加盟組織の皆さんに呼びかけることを決定しました。

今回の0.4%のマイナス改定は、18年度から20年度の実質賃金下がったことを理由にしていますが、これは、新型コロナの影響で現役労働者の賃金収入が減ったことや消費税増税（19年10月）で物価が上がったことの影響を受けたものです。

安倍政権下の13年度から岸田政権下の22年度までの10年間で、物価の変動率は「プラス5.6%」ですが、年金改定率は「マイナス1.1%」で、年金額は実質6.7%も削減されることとなります。

年金だけで生活している高齢者世帯は57.2%、定額の保険料を納付できない人は708万人もいます。

新型コロナによる影響に加え、原油高騰やウクライナ情勢により、物価が急騰しているもどで、「公的年金の一律0.4%引き下げ」は、低所得の世帯ほど打撃は大きく、貧困と格差の拡大に拍車をかけることとなります。また、地域経済にも大きな影響を与えます。

すでに、宮城県大崎市をはじめ地方議会で「公的年金の引き下げ中止を求める意見書」が採択されています。また、高知新聞や沖縄タイムスをはじめ地方紙では、高齢者や年金受給者から「年金引下げに対する怒りの声」が掲載されています。

多くの高齢者の生活実態を無視し、将来の年金受給者に影響を与える、年金引き下げの決定を撤回するとともに、高齢者が安心して暮らせる年金制度の実現を強く求めるため、緊急ですが、下記の抗議・要請の FAX 行動に取り組むよう要請します。

記

(1) 行動の内容

●厚生労働大臣に FAX により、抗議・要請文を集中してください。

→ 送付先

HP も活用「国民参加の場」

(2) 行動の期間（3月24日～5月25日までの約2カ月間）

(3) 要請文例

●「年金生活者の暮らしは、コロナ禍と原油高騰、ウクライナ情勢による物価高騰により、一段と厳しさを増しています。多くの高齢者の生活実態を無視し、将来の年金受給者にも影響を与える、年金引き下げの決定を撤回するとともに、高齢者が安心して暮らせる年金制度を実現して下さい。」

以上

今年の4月分(6月支給)から

年金額が減らされる!!

理由は現役労働者の賃金低下?!

物価が上がって
高齢者も現役労働者も
みんな困っています



怒

それって
おかしいじゃないか

今回の0.4%減額で、国民年金を満額受給している人は月額259円減額、厚生年金のモデル世帯で月額903円の減額になります。

食料品や灯油代、電気・ガス代など物価上昇は続いています。家計が厳しくなっている中での年金削減は、高齢者の暮らしに大打撃になります。とりわけ女性の低年金に追い打ちをかけるものです。年金の際限のない減額は、現役労働者や若者の将来展望を失わせることとなります。年金の削減は直ちに撤回すべきです。

2年連続引き下げ

2022年 0.4%引下げ

この後40年間も
減額が続きます

自民・公明政権10年で6.7%削減

あなたも年金者組合へ
多くの皆さんの加入をお待ちしています

電話・FAXで
厚生労働省へ抗議
することは
国を動かす効
果があります

「減らない年金」をつくることはできます

- ◆「マクロ経済スライド」を廃止する
廃止のための財源は7兆円。年金積立金の4%にすぎません
- ◆最低保障年金制度をつくる
- ◆190兆円もある年金積立金を、給付等のために計画的に活用する

厚生労働省
TEL : 03-5253-1111
FAX : 03-3595-3047

署名を国に届け要求を実現しましょう 署名にご協力を

 **全日本年金者組合**
〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-60-20 天翔大塚駅前ビル
TEL 03-5978-2751 FAX 03-5978-2777
Email: honbu@nenkinsha-u.org

2022年3月24日

国会議員のみなさまへ

全国労働組合総連合
全日本年金者組合

若者も高齢者も安心できる年金と雇用を！2022 署名の紹介議員のお願い

連日のご奮闘に敬意を表します。

さて、私たちは今年1月から「若者も高齢者も安心できる年金と雇用を求める請願署名」(別紙)に取り組んでいます。

コロナ禍の中、厚生労働省は1月21日、2022年度の公的年金額を21年度比0.4%引き下げると発表しました。10月からは75歳以上の医療費窓口負担2倍化も予定され、介護保険料や国保料の値上げの相次ぐ中での年金引き下げです。ロシアのウクライナ侵略により物価も高騰しています。年金引き下げの中止こそが必要です。

低年金により働かざるを得ない高齢者を増やし、その高齢者を低賃金不安定雇用で働かせる年金制度と高齢者雇用制度について、私たちは抜本的な見直しが必要だと考えています。

つきましては、標記署名の紹介議員をお引き受けいただくことをお願いするものです。

なお、紹介議員の諾否につきましては、大変お忙しい中、恐れ入りますがFAXでご回答をいただければ幸いです。

以上

ご回答用紙

お手数をおかけしますが、ご記入の上、ファックスでご返送ください。

FAX 03-5842-5620

<返送先>全労連(栗原)

TEL 03-5842-5611

議員のお名前 ()

衆院 参院 政党名 ()

ご連絡先 (電話:) ご担当者様のお名前 ()

●年金・高齢期雇用署名の紹介議員

—どちらかに丸をしてください—

なります

なれません

◆メッセージをお寄せいただければ幸いです。

衆院厚労委員名簿

	厚労	氏名	よみがな	会派	選挙区	会館	室番号	当選回数	参加	紹介議員
1	委員	深澤陽一	ふかざわ よういち	自民	静岡4	1	1223	2		
2	委員	宮本徹	みやもと とおる	共産	(比) 東京	1	1219	3		
3	理事	牧原秀樹	まきはら ひでき	自民	(比) 北関東	1	1116	5		
4	委員	塩崎彰久	しおざき あきひさ	自民	愛媛1	1	1102	1		
5	委員	土田慎	つちだ しん	自民	東京13	1	1020	1		
6	委員	松本尚	まつもと ひさし	自民	千葉13	1	1009	1		
7	理事	伊佐進一	いさ しんいち	公明	大阪6	1	1004	4		
8	理事	池下卓	いけした たく	維新	大阪10	1	907	1		
9	委員	田村憲久	たむら のりひさ	自民	三重1	1	902	9		
10	理事	齋藤健	さいとう けん	自民	千葉7	1	822	5		
11	理事	山井和則	やまのい かずのり	立民	京都6	1	805	8	×	×
12	委員	田中健	たなか けん	国民	(比) 東海	1	712	1		
13	委員	川崎ひでと	かわさき ひでと	自民	三重2	1	702	1		
14	委員	鈴木英敬	すずき えいけい	自民	三重4	1	614	1		
15	委員	西田昭二	にしだ しょうじ	自民	石川3	1	523	2		
16	委員	畦元将吾	あぜもと しょうご	自民	(比) 中国	1	501	2		
17	委員	阿部知子	あべ ともこ	立民	神奈川12	1	424	8		
18	理事	今枝宗一郎	いまえだ そういちろう	自民	愛知14	1	422	4		
19	委員	柳本顕	やなぎもと あきら	自民	(比) 近畿	1	320	1		
20	委員	後藤田正純	ごとうだ まさずみ	自民	(比) 四国	1	315	8		
21	委員	山本左近	やまもと さこん	自民	(比) 東海	1	304	1		
22	理事	柚木道義	ゆのき みちよし	立民	(比) 中国	2	1217	6		
23	委員	井坂信彦	いさか のぶひこ	立民	兵庫1	2	1216	3		
24	理事	高階恵美子	たかがい えみこ	自民	(比) 中国	2	1208	1 (参2)		
25	委員	三谷英弘	みたに ひでひろ	自民	(比) 南関東	2	1120	3		
26	委員	加藤勝信	かとう かつのぶ	自民	岡山5	2	1104	7		
27	委員	山崎正恭	やまさき まさやす	公明	(比) 四国	2	1024	1		
28	委員	早稲田ゆき	わせだ ゆき	立民	神奈川4	2	1012	2	○	○
29	委員	上田英俊	うえだ えいしゅん	自民	富山2	2	811	1		
30	委員	中島克仁	なかじま かつひと	立民	(比) 南関東	2	723	4		
31	委員	長妻昭	ながつま あきら	立民	東京7	2	706	8		
32	委員	長谷川淳二	はせがわ じゅんじ	自民	愛媛4	2	703	1		
33	委員	勝目康	かつめ やすし	自民	京都1	2	615	1		
34	委員	野間健	のま たけし	立民	鹿児島3	2	601	3		
35	委員	三ッ林裕巳	みつばやし ひろみ	自民	埼玉14	2	522	4		
36	委員	一谷勇一郎	いちたに ゆういちろう	維新	(比) 近畿	2	507	1		
37	委員	吉田久美子	よしだ くみこ	公明	(比) 九州	2	504	1		
38	委員	吉田とも代	よしだ ともよ	維新	(比) 四国	2	424	1		
39	委員	金村龍那	かねむら りゅうな	維新	(比) 南関東	2	421	1		
40	委員	山田勝彦	やまだ かつひこ	立民	(比)九州	2	401	1		
41	委員	吉田統彦	よしだ つねひこ	立民	(比) 東海	2	322	3		
42	委員長	橋本岳	はしもと がく	自民	岡山4	2	306	5		
43	委員	佐々木紀	ささき はじめ	自民	石川2	2	301	4		
44	委員	高木宏壽	たかぎ ひろひさ	自民	北海道3	2	217	3		
45	委員	仁木博文	にき ひろぶみ	有志	徳島1	2	213	2		

参院、厚労委員名簿

	厚労委	氏名	会派	選挙区	任期満了	会館	参加	紹介 議員
1	委員	比嘉奈津美	自民	比例	繰り上げ	不明		
2	委員	藤井基之	自民	比例	令和4年7月25日	1218		
3	委員	衛藤晟一	自民	比例	令和7年7月28日	1216		
4	委員	森屋隆	立憲	比例	令和7年7月28日	1211		
5	委員長	山田宏	自民	比例	令和4年7月25日	1205		
6	委員	石井苗子	維新	比例	令和4年7月25日	1115		
7	委員	福島みずほ	立憲	比例	令和4年7月25日	1111		○
8	理事	石田昌宏	自民	比例	令和7年7月28日	1101		
9	理事	山本香苗	公明	比例	令和7年7月28日	1024		
10	委員	倉林明子	共産	京都	令和7年7月28日	1021		
11	委員	山本順三	自民	愛媛	令和4年7月25日	1019		
12	理事	田村まみ	民主	比例	令和7年7月28日	910		
13	委員	打越さく良	無	新潟	令和7年7月28日	901		
14	委員	三原じゅん子	自民	神奈川	令和4年7月25日	823		
15	委員	石垣のりこ	立憲	宮城	令和7年7月28日	813	○	○
16	委員	古川俊治	自民	埼玉	令和7年7月28日	718		
17	委員	秋野公造	公明	比例	令和4年7月25日	711		
18	委員	足立信也	民主	大分	令和4年7月25日	613		
19	委員	そのだ修光	自民	比例	令和4年7月25日	607		
20	委員	竹谷とし子	公明	東京	令和4年7月25日	517		
21	理事	川田龍平	立憲	比例	令和7年7月28日	508	×	○
22	委員	島村大	自民	神奈川	令和7年7月28日	415		
23	理事	小川克巳	自民	比例	令和4年7月25日	405		
24	委員	梅村聡	維新	比例	令和7年7月28日	326		
25	委員	羽生田俊	自民	比例	令和7年7月28日	319		

参院改選議員名簿

	氏名	会派	選挙区	任期満了	会館	参加	紹介議員
1	中曽根弘文	自民	群馬	令和4年7月25日	1224		
2	川合孝典	民主	比例	令和4年7月25日	1223		
3	柳田稔	民主	広島	令和4年7月25日	1222		
4	青山繁晴	自民	比例	令和4年7月25日	1215		
5	矢田わか子	民主	比例	令和4年7月25日	1212		
6	宮崎 勝	公明	比例	令和4年7月25日	1209		
7	石井章	維新	比例	令和4年7月25日	1204		
8	大門実紀史	共産	比例	令和4年7月25日	1203		
9	金子原二郎	自民	長崎	令和4年7月25日	1202		
10	山崎正昭	自民	福井	令和4年7月25日	1201		
11	野村哲郎	自民	鹿児島	令和4年7月25日	1120		
12	熊野正士	公明	比例	令和4年7月25日	1118		
13	白眞勲	立憲	比例	令和4年7月25日	1116		
14	古賀之士	民主	福岡	令和4年7月25日	1108		
15	山谷えり子	自民	比例	令和4年7月25日	1107		
16	田名部匡代	民主	青森	令和4年7月25日	1106		
17	猪口邦子	自民	千葉	令和4年7月25日	1105		
18	関口昌一	自民	埼玉	令和4年7月25日	1104		
19	江島潔	自民	山口	令和4年7月25日	1103		
20	松村祥史	自民	熊本	令和4年7月25日	1023		
21	浜口誠	民主	比例	令和4年7月25日	1022		
22	渡辺喜美	みん	比例	令和4年7月25日	1020		
23	山本順三	自民	愛媛	令和4年7月25日	1019		
24	伊藤孝江	公明	兵庫	令和4年7月25日	1014		
25	水落敏栄	自民	比例	令和4年7月25日	1013		
26	野上浩太郎	自民	富山	令和4年7月25日	1010		
27	藤末健三	自民	比例	令和4年7月25日	1009		
28	伊藤孝恵	民主	愛知	令和4年7月25日	1008		
29	藤木眞也	自民	比例	令和4年7月25日	1006		
30	西田実仁	公明	埼玉	令和4年7月25日	1005		
31	岩渕友	共産	比例	令和4年7月25日	1002		
32	谷合正明	公明	比例	令和4年7月25日	922		
33	二之湯智	自民	京都	令和4年7月25日	921		
34	鉢呂吉雄	立憲	北海道	令和4年7月25日	920		
35	福岡資麿	自民	佐賀	令和4年7月25日	919		
36	上野通子	自民	栃木	令和4年7月25日	918		
37	小西洋之	立憲	千葉	令和4年7月25日	915		

	氏名	会派	選挙区	任期満了	会館	参加	紹介議員
38	郡司彰	立憲	茨城	令和4年7月25日	912		
39	元榮太一郎	自民	千葉	令和4年7月25日	909		
40	田村智子	共産	比例	令和4年7月25日	908	△	○
41	高瀬弘美	公明	福岡	令和4年7月25日	907		
42	末松信介	自民	兵庫	令和4年7月25日	905		
43	中川雅治	自民	東京	令和4年7月25日	904		
44	松下新平	自民	宮崎	令和4年7月25日	824		
45	平山佐知子	無	静岡	令和4年7月25日	822		
46	難波奨二	立憲	比例	令和4年7月25日	821		
47	宮沢洋一	自民	広島	令和4年7月25日	820		
48	山添拓	共産	東京	令和4年7月25日	817		
49	青木一彦	自民	鳥取・島根	令和4年7月25日	814		
50	舟山康江	民主	山形	令和4年7月25日	810		
51	福山哲郎	立憲	京都	令和4年7月25日	808		
52	岡田直樹	自民	石川	令和4年7月25日	807		
53	三浦信祐	公明	神奈川	令和4年7月25日	804		
54	竹内真二	公明	比例	令和4年7月25日	801		
55	杉尾秀哉	立憲	長野	令和4年7月25日	724		
56	片山大介	維新	兵庫	令和4年7月25日	721		
57	進藤金日子	自民	比例	令和4年7月25日	719		
58	藤市政人	自民	愛知	令和4年7月25日	717		
59	こやり隆史	自民	滋賀	令和4年7月25日	716		
60	木戸口英司	民主	岩手	令和4年7月25日	715		
61	石井浩郎	自民	秋田	令和4年7月25日	713		
62	佐藤啓	自民	奈良	令和4年7月25日	708		
63	斎藤嘉隆	立憲	愛知	令和4年7月25日	707		
64	徳永エリ	立憲	北海道	令和4年7月25日	701		
65	磯崎仁彦	自民	香川	令和4年7月25日	624		
66	中西祐介	自民	徳島・高知	令和4年7月25日	622		
67	浅田均	維新	大阪	令和4年7月25日	621		
68	朝日健太郎	自民	東京	令和4年7月25日	620		
69	長谷川岳	自民	北海道	令和4年7月25日	619		
70	上田清司	民主	埼玉	令和4年7月25日	618		
71	石川博崇	公明	大阪	令和4年7月25日	616		
72	足立信也	民主	大分	令和4年7月25日	613		
73	小川敏夫	無	東京	令和4年7月25日	605		
74	増子輝彦	民主	福島	令和4年7月25日	602		
75	宮島喜文	自民	比例	令和4年7月25日	601		

	氏名	会派	選挙区	任期満了	会館	参加	紹介議員
76	石橋通宏	立憲	比例	令和4年7月25日	523		
77	伊波洋一	沖縄	沖縄	令和4年7月25日	519		
78	大家敏志	自民	福岡	令和4年7月25日	518		
79	宇都隆史	自民	比例	令和4年7月25日	516		
80	市田忠義	共産	比例	令和4年7月25日	513		
81	櫻井充	民主	宮城	令和4年7月25日	512		
82	江崎孝	立憲	比例	令和4年7月25日	511		
83	青木愛	民主	比例	令和4年7月25日	507		
84	自見はなこ	自民	比例	令和4年7月25日	504		
85	足立敏之	自民	比例	令和4年7月25日	501		
86	徳茂雅之	自民	比例	令和4年7月25日	424		
87	中西哲	自民	比例	令和4年7月25日	423		
88	片山さつき	自民	比例	令和4年7月25日	420		
89	片山虎之助	維新	比例	令和4年7月25日	418		
90	有田芳生	立憲	比例	令和4年7月25日	416		
91	岡田広	自民	茨城	令和4年7月25日	414		
92	蓮舫	立憲	東京	令和4年7月25日	411		
93	那谷屋正義	立憲	比例	令和4年7月25日	409		
94	武田良介	共産	比例	令和4年7月25日	408	○	○
95	松川るい	自民	大阪	令和4年7月25日	407		
96	小林正夫	民主	比例	令和4年7月25日	406		
97	横山信一	公明	比例	令和4年7月25日	402		
98	渡辺猛之	自民	岐阜	令和4年7月25日	325		
99	宮沢由佳	立憲	山梨	令和4年7月25日	322		
100	真山勇一	立憲	神奈川	令和4年7月25日	320		
101	小野田紀美	自民	岡山	令和4年7月25日	318		
102	芝博一	立憲	三重	令和4年7月25日	317		
103	浜田昌良	公明	比例	令和4年7月25日	316		
104	今井絵理子	自民	比例	令和4年7月25日	315		
105	鶴保庸介	自民	和歌山	令和4年7月25日	313		
106	阿達雅志	自民	比例	令和4年7月25日	309		
107	高木かおり	維新	大阪	令和4年7月25日	306		
108	森ゆうこ	民主	新潟	令和4年7月25日	304		
109	里見隆治	公明	愛知	令和4年7月25日	301		

これから年をとる人も、いま高齢の人も 安心の年金にしたい

公的年金は、老後だけでなく障害や死亡というときに本人や遺族の生活を支える大切な制度です。

しかし、政府は支給額の削減や支給開始年齢の引き上げを進め、多くの高齢者が低賃金の再雇用や非正規、フリーランスで働かざるをえなくなっています。それにより、労働者全体の賃金や報酬の低下も招いています。

一方、私たちの「年金積立金」は大企業や富裕層のために株式相場に注がれています。積立金の用途の改善と、内部留保のためこんでいる大企業や富裕層への適正な課税で財源をつくり、だれもが安心できる公的年金制度をつくりましょう。高齢労働者の労働条件を改善しましょう。

そのための法改正を求める署名に、ご協力ください。

最低保障年金制度を
国の責任で

毎月支給に
してほしい

マクロ経済
スライドで
引き下げないで

年金開始年齢
引き上げないで

定年したら
年金開始して

保険料下げて。
積立金多すぎでは？

安心の
年金に
変えよう



支給開始

どんどん先のばし!?

支給額引き下げ ず〜っと働く!?

年金基金は株式市場を支えるために

高齢者は安上がり労働力

働かないと暮らせないと

もう体力が

不安...

フリーランスだからず〜っと働くよ



若者も高齢者も安心できる年金と雇用を

請願趣旨

今や労働者の4割は非正規雇用です。若者の間ではフリーランス志向も強まっています。この状況を、政府は「多様で柔軟な働き方」として評価していますが、現在の年金制度では、非正規やフリーランスの老後は大変です。賃金・報酬は低く、退職金もなく、貯蓄できずに老後を迎えると、頼みの綱の年金は低額です。保険料が払えず無年金となる人も少なくありません。

すべての人の老後を支えるため、公的年金の改善が必要ですが、この間行われてきたのは、支給開始年齢の引き上げや、支給額の引き下げの仕組みの導入などの年金改悪です。

高齢になっても安心して暮らし、退職か、働くかを主体的に選べるようにするため、全額国庫負担の「最低保障年金制度」が必要です。また、働く場合は「同一労働同一賃金」の待遇と安全に働ける労働条件が保障されるべきです。

公的年金と高齢者雇用にかかわって、以下の事項の実現を求めます。

請願項目

1. 年金について

- ①年金引き下げの仕組みである「マクロ経済スライド」は廃止すること。
- ②65歳の年金支給開始年齢をこれ以上引き上げないこと。
- ③全額国庫負担による「最低保障年金制度」を早急を実現すること。
当面、基礎年金の国庫負担分3.3万円/月を全ての高齢者に支給すること。
- ④年金支給は隔月でなく、国際標準である毎月支給とすること。
- ⑤年金積立金の株式運用をやめ、年金保険料の軽減や年金給付の充実をはかること。

2. 高齢者雇用について

- ①年金の支給開始年齢と定年年齢は接続させるものとする。
ただし、過密・過重労働、夜勤交替制労働など心身の負荷が高い業務については、60歳からの減額なしの特別支給制度を創設すること。
- ②定年や年齢を理由とした一方的な賃金の引き下げを禁止し、労働者の経験と職務に応じた「同一労働同一賃金」を順守させること。
- ③継続雇用者を65歳以降、業務委託に切り替える「創業支援等措置」は廃止すること

※この署名は国会請願以外の目的では使用しません。氏名・住所の記入欄に「同上」「〇」は不可、住所は番地まで記入をお願いします。

氏名	住所
	都・道 府・県
	都・道 府・県
	都・道 府・県
	都・道 府・県
	都・道 府・県